



市の鳥獣対策のスペシャリスト  
高橋藤男さん 笹本専次さん

耕作放棄地を再生させることも重要な課題の一つですが、農地自体を守り、保全していくことも下田市の農業者にとつて非常に大切なことです。そのなかで、鳥獣被害、とりわけイノシシの問題については、近年生息数の増加及び活動範囲の拡大により、被害が甚大になってきています。今まで被害の少なかった須崎地区の被害が増加し、市街地での出没も目撃され、住宅地を荒らすなどの報告もありました。また、崖などを崩してしまつたため、台風などの際に崖崩

## 広がる鳥獣対策

れが容易に発生してしまうのではないかと、この不安の声が広がっていました。

下田市では平成23・24年度に箱罠を新たに15台購入、2名の専門職を臨時で雇い、平成24年度からは捕獲計画を立てて猟友会と協力し鳥獣被害対策に取り組んでいます。

その結果、下表のとおり、平成22年度には86頭だった捕獲数が平成24年度には448頭と劇的な成果を挙げました。平成25年度以降は年間の捕獲目標数を300頭と定め、鳥獣被害対策に取り組んでいきます。

### ■ 下田市の活動

- ・箱罠設置による捕獲・駆除
- ・農地への防護柵設置に対する補助（補助率1/2、限度額10万円）
- ・追い払い機材の貸出し（エアガン、パチンコ、ロケット花火等）
- ・有害獣捕獲報奨金（有害鳥獣捕獲許可を受けたものに限る）



取材中、捕まったイノシシに遭遇

有害鳥獣駆除許可証による捕獲数(狩猟期間除く) 単位：頭

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
イノシシ	82	86	231	448
二ホンジカ	20	12	18	24
サル	8	1	6	19

### 被害の傾向

イノシシ：水稻、果樹、野菜、タケノコ、イモ類等  
サル：果樹、野菜 シカ：水稻、果樹、わさび



加増野ポレポレの皆さん



カボチャ特有のうまみ



伊豆大特産市でも大人気



とってもジューシーです

おいしい  
おいしい  
おいしい  
おいしい

ツルクビカボチャのおやき  
ツルクビカボチャの栽培とともに加工品開発も行っている加増野ポレポレの皆さんがツルクビカボチャをペーパースト状にして試作したおやきです。この他、まんじゅうやテンぷらなど、様々な可能性を秘める食材です。

イノシシのチャーシュー  
イノシシ鍋などが一般的な調理法だと思えますが、11月17日に行われた伊豆大特産市で紹介されたのがイノシシのチャーシューでした。臭みも少なく、味わいのあるチャーシューは来場された皆さんにも好評でした。



整備前 雑草が荒れ放題です。

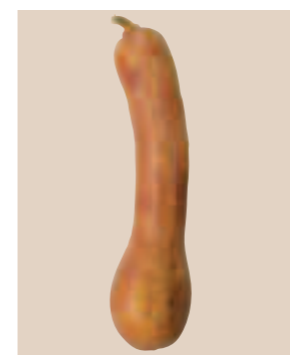


整備後 しっかりとした畑が復活しました。

### 荒れ地からの再生

耕作放棄地とは、農作物が1年以上作付けされず、農業者が数年の内に作付けする予定のない農地のことを言い、下田市では高齢化や後継者不足などの影響で、年々耕作放棄地が拡大しています。耕作放棄地が広がると、雑草や害虫の発生により、隣接する農地に悪影響を及ぼすなど、様々な問題が発生しています。

早急な対応・対策が求められるなか、下田市農業再生協議会では、平成24年より2か年にわたり耕作放棄地再生のため、ツルクビカボチャの栽培に取り組んでいます。ツルクビカボチャとは、日本南瓜の一種。病虫害や雑草にも強いとされ、果肉は水分が多く、オレンジ色で甘味があります。



雑草や病虫害に強いとされるツルクビカボチャの試験栽培は賀茂農林事務所の協力のもと、加増野ポレポレが行いました。

○耕作放棄地対策のポイント

- ①引き受け手
- ②土地条件
- ③作物はどうするか

これらの要件の中で、ツルクビカボチャが作物として適していることが分ければ耕作放棄地解消の糸口が見えてきます。いくら整地をしても、育てるものがなければ、すぐに雑草まみれの荒れ地に逆戻りしてしまいます。

また、苦勞して収穫した作物も、市場に出回らなければ意味がありません。

加増野ポレポレはまんじゅうやケーキなど、加工品の開発にも取り組んでいます。その他、スープなど家庭でも料理できるので皆さんもぜひ味わってみてください。

今後、昨年との比較を行い、連作障害などがないか、手軽に導入可能か調査します。

結果が良好であれば、栽培マニュアルを配布するなど、耕作放棄地対策の一環として広めていきます。